

第四話 史上最悪の感染症

最近、三人でお酒を飲んでいた時の話です。場所は銀座のはずれの店。と言っても、B.C.2年かB.C.1年(Before Corona 新型の紀元前)のことなので、もうA.C.3年(After Corona)になった今からは、はるか昔のできごとのようです。高校時代の古い友人は会社を営んでいて、銀座にオフィスを構え、近所で銀座唯一の地ビールを飲ませるその店も彼の紹介です。もう一人も高校からの友人で、政治家をしています。二人はさつきから、世界中で投資熱が高まり、市場が膨張し続けていることを熱く議論しています。私は冷めた目で遠くから、議論を聞いていました。

1974年にノーベル経済学賞をもらったハイエクは新自由主義を唱え、金融資本の規制緩和を訴えました。1980年代のサッチャーやレーガンの政策の背景になった考え方です。不動産が金融化され「ハゲタカ」が跋扈（ばっこ）し始めて、もう40年が経っています。そんなに熱く議論することかなあ。

「そんな金融資本主義の話はすべてバーチャル（仮想現実）で、一般人には迷惑なだけだ。マネーゲームは、所詮はただの賭博ゲームで、資本家たちだけを収容した賭博場でやってほしい」と、退屈していた私は横やりを入れました。

大切なお金の話なのに、「お金はバーチャル」は暴論のように聞こえます。でも暴論ではありません。これもB.C.(紀元前)のことになりますが、経済の専門家と飲んでいた時、「お金って、言ってしまうとバーチャルな存在ですよ」と私は唐突に専門家にたずねました。受け取り方によっては、東大経済学の教授をしているその人の専門分野を否定することになります。私はどうしても彼の意見、反論が聞きたかったのです。

「その通りですよ、平岩先生。お金はバーチャルです。」と経済学者の返答は予想に反してそっけないものでした。「やはり、専門家もそう思っているのか」と私は心の中でひどく納得し、同時にちょっと寒々とした気持ちになりました。たとえば宗教学が文学部に属しているように、本来は経済学も文学部に属すべき分野なのです¹。

銀座の三人の男たちに話を戻せば、「金融の話なんて、つまりはバーチャル」と言った私に、社長は「では何の話なら、バーチャルではないのか」と不服そうな顔をします。それ

¹ この時まで、経済学者も私も『サピエンス全史』（ハラリ著）を知らなかった。この大著を一言で要約すれば（ずいぶん乱暴だが）、「ヒト（ホモ・サピエンス）という種には、自分たちが作った虚構を信じる力が備わっていて（ハラリはこれを『認知革命』と命名）、この虚構を信じる力で巨大な集団を形成することができ、他のサピエンスを圧倒して今日の繁栄を築いた」というもの。

二百余年前にカントが形而上学（魂の学問）を自然科学から切り離して以来、人々が薄々気づき始めた“虚構を信じる人間の特性”を現代のユヴァル・ノア・ハラリ氏が総括し、自著で虚構こそが人間の本質だと普遍化した。この本を読んでいれば、「お金もハラリの唱える“虚構”の一つ」の理解は容易だった。

では、と私は自分が医学にかかわって 40 年、その中でもっとも恐ろしいと感じたリアルな出来事を話し始めました。たとえ金融資本が破綻して、将来また恐慌²が世界を襲ったとしても、この話ほど恐ろしくはないでしょう。

1981 年に発見されたある感染症のことです。その特徴を四つにまとめると、

- ① 性病の一つ
- ② 感染してもその症状は風邪もどきで、数週間もすれば、一度は「治癒したか」のようにみえる
- ③ しかし一度感染したら、全員が感染から数年～十数年後に免疫不全になり、100%死亡する
- ④ 治療法はない

これに関する医学部での講義はまだなかったのに、あっという間に、この病気の知見が医学生の間にも広がりました。授業にほとんど出席しなかった「勤労学生」の私も、すぐに知ったほどです。

この感染症がなぜ最悪なのか、四つの特徴をみていきましょう。まずは①性病であることです。診断学の基本の基本は、患者の背景を考えることです。年齢性別人種から始まって職業や行動、周りの生活環境を知ることで、病名が絞られてきます。たとえば、20 歳代で癌になることはきわめて稀です。患者の背景を知るだけで病名は絞られます。ところが性病は違います。逆に、患者の背景を考えないことが診断の第一歩なのです。75 歳超の後期高齢者でも新規の性病感染者はいます。社会常識で性病の診療に当たってはいけなく、と医学生は教育されます。男女や教育や社会的地位、貧富を問わないのが性病の特徴です。医者は、患者がどんな背景を持つ人であっても性病の可能性を排除できません。

誰もが罹りうる性病ですが、一方で性病に罹らない方法は簡単です。性行為をしなければ良い。たとえばこれから 100 年間、すべての人々が性行為をしなければ、すべての性病は根絶できます³。でも同時に、人類も根絶してしまいます。個人では完全に予防できても、人間という種を考えた場合、絶対に根絶できないのが性病です。梅毒は、西暦 1500 年頃に米大陸からヨーロッパに持ち出されたのち（日本上陸は 1512 年の室町時代）、世界中を席卷し続けています。梅毒は性病であるがゆえに、根絶できないでいます⁴。

「②一度は『治癒したか』」という特徴が、この感染症を恐ろしい病気にします。梅毒は陰部に潰瘍ができたり全身のリンパ節が腫れたりする時期が数か月続き、同時にこの時に感染力も最強になりますが、これらの症状は梅毒の伝染にブレーキをかけます。そんな時期の性行為は減ると予想できるからです。しかしこの感染症の場合は梅毒と違って「治癒

² 前回は 1929 年。第二次世界大戦の遠因となった。

³ もちろんすべての人が特定の人とだけ性交渉するなら、これでも性病は絶対に伝染しないが、それも不可能であることは歴史が証明している。

⁴ 第二次世界大戦後、日本では患者が減少し続けていたのに、2000 年以降になって新規患者数が上昇に転じていることは前にも書いた。

したか」にみえるので、感染力も衰えません。伝染にブレーキがかからないのです。

「③数年後（～十数年後）に 100%死亡」が、この感染症の恐怖を最大にします。必ず死亡する感染症は他にもう一つあります。狂犬病です。世界で毎年 5 万人も感染して、しかも死亡率は 100%です。ただ犬猫やコウモリに近づかなければ良い。少なくとも日本では 1957 年を最後に 60 年余り根絶されています⁵。稀な感染症⁶を除けば、100%死亡は地球上に狂犬病だけでした。人間が根絶した唯一の伝染病である天然痘は、たとえば日本史の教科書にも載っているように西暦 730 年頃には藤原四兄弟の命を奪いましたが、それでも死亡率は 30%程度です。「あばたもえくぼ」のあばたは天然痘の皮膚痕のことですが、無治療で 70%は治癒しますから、感染しても生き延びて「えくぼ」と称えられたわけです。

同じ性病の梅毒はというと、無治療でも 1/3 が自然治癒します。この治癒する中に入らない場合でも、1/3 は潜在感染⁷に移行します。残りの 1/3 だけが長い年月をかけ、致命的な神経血管障害や精神障害をもたらすことになります。梅毒が治療して全員が治癒できるようになったのはほんの 100 年前にすぎませんが、それでも人類が長い間、“呑気”に梅毒とともに生きてきたのは治療法がなくても治る人の方が多いからです⁸。

治療法のない 100%死亡の性病とは、もちろん HIV ウイルス⁹ (病名は AIDS) のことです。人類史上最悪の伝染病です。AIDS の登場は、歴史の終焉を意味しています。私たちは原爆

⁵ 私は小学校 2 年生の時、広島城の堀端を歩いていて、近所で放し飼いにされていた犬に右大腿部を噛まれ、病院に担ぎ込まれた。周りの大人たちは「狂犬病、狂犬病」と言い、私も一緒になって心配した。小学生でも「狂犬病は死亡率 100%」を知っていたからだ。診た医者が涼しい顔で「狂犬病は大丈夫でしょう」と言ったので、私は子供心にも「この医者の判断は大丈夫か」と心配したが、1957 年の根絶から数年経っていた頃で、「大丈夫」は間違いとも言えず、今も私はこの時の医者の判断は微妙と思っている。

1957 年以降も日本国内で狂犬病は散発しているが、すべて海外で感染したもの。最近では 2020 年に名古屋で狂犬病患者が出た。この症例はフィリピン人で、フィリピンで犬に噛まれた後に来日して発症、のちに死亡した。予防のワクチンはある。

⁶ 生物兵器に使われる感染症は天然痘、炭疽、ボツリヌス、ペストの四つで、この内の最悪死亡率がペストと炭疽、どちらも無治療なら 9 割超の致死率。炭疽を使ったテロが 2001 年に米国内で起こり、5 人が死亡した。ただ、ペストも炭疽も早く抗生剤を使えばよく効く。

⁷ バイ菌（梅毒スピロヘータ）は体内に残るが、本人は元気になり、他人への感染力も消失する。バイ菌と共存する状態。

⁸ 抗生剤が登場する前、何百年間も「水銀」が梅毒治療の切り札だった。もちろん水銀は毒で、本当はまったく効果がないから、今の時代に水銀を治療に使う人はいない。100 年前までの長い間「水銀が効いた、効いた」と使われ続けたけど、実はそれは自然治癒だった。昔の患者や医者が愚か者なのではない。人は「直前の事が原因」と考えがちなのだ。

同様に、新型コロナに「アビガンが効いた」とか「イベルメクチンが効いた」とどんなに患者本人が証言しても、マスコミが言っても、総理大臣が言っても、一部の医者が言っても、それらは水銀ほどの価値もない。放置すればほぼ確実に死亡する癌などの治療と違い、自然治癒することが多い病気の治療研究では、「無作為比較試験」などの知見が欠かせない。

⁹ HIV は human-immunodeficiency virus の略なので、「HIV ウイルス」は「頭痛が痛い」と同じ用法で、正しくない。

の時代に生まれ、原爆の脅威の中で育ち、いつも原爆が人類最大の脅威であると思って生きてきました。ただ原爆の脅威は、人間の叡智で何とかなるかもれない。

原爆こそが人類の敵と思っていたら、意外なところからもっと怖ろしい敵が現れました。人間の歴史に終焉がもたらされようとしています。他の生き物と同様、人間という種もいつかは滅びると頭では理解できます。しかしまさか、自分が生きている時代に絶滅の時が訪れようとは。

AIDS 発見から 10 年たった 1990 年、患者数は世界で 100 万人に増えました。ゆっくりと静かですが、21 世紀に人類は終わるはずでした。

でもそれからしばらくしてのことです。新しい研究結果がもたらされました。HIV ウイルス感染の特徴「③100%死亡」に少し誤りがあることがわかったのです。「小さな誤り」は重大だと私は思いました。それは、たった 1%ですが、1%の人は HIV に感染しても AIDS が発症しないとわかったのです。ということは AIDS の死亡率が 99%になります。「助かった」と私は思いました。

「死亡率 99%」を知ったとき、どれほど安堵したことでしょう。たったの 1%ですが、人類は滅亡しないのです。人類がまだ生き延びることが示されたのです。私は、自分自身が生き残る 1%なのか、それとも死亡する 99%に入るのかも知らないのに、とにかく嬉しかった。HIV ウイルスがいくら蔓延しても、1%の人は HIV ウイルスとともに生存し続けます。どんなに AIDS が蔓延しても、70 億人の人口が 7 千万人に減るだけのことです。これでも人類史の大惨事には違いありませんが、滅亡はしません。地球上の総人口が 7 千万人に減るということは、ちょうど 2000 年前くらいの人口（数千万～1 億人と推定）に戻るだけのことです。中国の漢、欧州のローマ帝国、エジプトのクレオパトラ¹⁰、日本の弥生時代に帰るだけのことです。人類 20 万年の歴史の長さでわずか 2000 年だけ、歴史が逆回転すればよい。20 世紀後半の 10 年余りの間に、人々があまり注目しないところで、人類が絶滅するかそれとも 2000 年戻るのか、歴史が大きく振り回されていました。

その後さらに研究が進み、AIDS は致命的な感染症ではなくなりました¹¹。まるで AIDS など存在しないかのように人々の生活は続き、新自由主義のバーチャルな話題にも熱中することができます。ただ賭博場の外では、リアルな世界が大きく振り回されている、と私は言いたいのです。

AIDS の 40 年史を聞いていた実業家と政治家は、しばし、うーんと黙り込みました。感染症の脅威はバーチャルではありません。人類最悪の感染症 AIDS は克服されようとしてい

¹⁰ 歴史クイズをひとつ。クレオパトラにとって、大ピラミッドとアポロ 11 号はどちらが時間的に身近かな存在か？ 「大ピラミッド」と答えそうだが、年表をみればわかるように、正解はプトレマイオス朝のクレオパトラにとって 20 世紀のアポロ 11 号の方が大ピラミッド（エジプト古王朝）よりずっと近い。

¹¹ もちろん高額の高額な薬物投与を生涯続けることが条件で、それができない途上国では年間 200 万人が今も AIDS で死亡している。もう一つの注意点があって、先進国で唯一日本は HIV の新規感染者が増え続けている。

ますが、私が強調したかったのはもちろん「AIDS の次」です。

その飲み会から 1、2 年経った時、突然に私達はどこからともなく現れた新型コロナに遭遇しています。世界中の景色が「少しだけ」変わってしまいました。見た目の変化は AIDS より強烈かも知れません。

昨年、日本に新型コロナが上陸してきた時、私はスペイン風邪級の感染症が出てきたと身構えました。前にも書いた通りです。スペイン風邪は 100 年前に突如出現し、日本で 40 万人、世界で 5000 万人が死亡した当時の新型インフルエンザです。その再来と私は覚悟したのですが、少し経って日本での新型コロナの死亡者数は数万人にとどまるだろうとの樂觀予想に変わったことも、前に書きました。ある人に何故か、と聞かれました。

理由は二つです。新型コロナは普通のインフルエンザに比べはるかに強毒だが、スペイン風邪級の新型インフルエンザに比べれば、ずっと弱毒であること。

もう一つは歴史の進歩です。スペイン風邪の頃は、人々は敵がウイルスか何なのかも知らない闘いを強いられました。でも今は敵の姿が見え、ワクチンも治療法も試みられています¹²。人々や各国政府の対応はいろいろですが、大きな目で見れば、100 年前と比べ、格段に合理的になっていると評価しています。

「投資の話はバーチャルだ」と言って、新自由主義と同じ 40 年の歴史になった AIDS の話をした私ですが、今考えると、私の話の重大な部分もバーチャルだったようです。

HIV ウイルスの脅威は事実で、バーチャルな出来事ではありません。でも自分が、HIV に感染して発症する 99% に属するのか発症しない 1% に属するのかの遺伝子検査をしたわけでもないのに、自分のことを忘れて人類が滅亡しないことに安堵した気持ちは、「人類愛の精神」と持ち上げてよいけれど、実は美德でも何でもなく、自分を忘れて集団全体を想う、これも「ハラリの虚構」の実例に違いありません。

¹² 予防法も治療法もまだまだ「？」だらけだけど、そもそも「医療はバクチ」が私の持論で、診断も治療も確率でしか語りえない。あらゆる薬はあらゆる副作用を起こしうる。これだけ世界中で一度に短期間で数十億人もワクチンとして同じ薬を投与するなんて、もちろん史上初である。何が起きてもおかしくないけど、だとしても未来の知識は活用できない。大バクチであることを自覚しながら、闘い続けるしかない。そう思いながら、私はワクチン打ちという「毎日曜日の雑用」に専念している。臨床実験の不十分なワクチンだから、不確定要素は大きい。